

# 沼津市の概要

沼津市は北緯35° 06' 東経138° 52'（市役所所在地）に位置し、南は深く入り込む駿河湾を隔てて遠く大瀬岬を眺め、北に秀麗富士を仰ぎ、伊豆箱根連山に源を発する狩野川が市街中心部を流れており、四季を通じて温暖な気候に恵まれている。

明治元年 9月	添地の長屋を利用して素読・手習・算術の3教科を授ける「代戯館」（だいぎかん）が設けられ、同年12月に我が国最初の小学校である「沼津兵学校附属小学校」へ引き継がれた。
明治21年	沼津港線（蛇松線）が完成
明治22年	町制施行（人口11,000余人、1,800世帯、城内・上土・本町・三枚橋）、同年東海道線が開通し、沼津駅が開設される。
明治26年	沼津御用邸が造営される。
大正12年 7月 1日	沼津町と楊原村が合併し、同時に市制を施行して全国89番目の市となる。
昭和 8年	沼津港が完成
昭和 9年	丹那トンネルが開通し、この後、次々に重工業生産工場が建設される。
昭和19年 4月	4か村（片浜村・金岡村・大岡村・静浦村）と合併
昭和30年 4月	4か村（愛鷹村・大平村・内浦村・西浦村）と合併
昭和43年 4月	駿東郡原町と合併
昭和55年12月	「青少年健全育成都市」宣言
昭和62年 3月	「核兵器廃絶平和都市」宣言
平成12年11月	県内初の「特例市」に移行（平成27年 4月 1日制度廃止）
平成17年 4月	田方郡戸田村と合併

現在、面積186.82km<sup>2</sup>、人口188,613人（令和5年4月1日現在）であり、東名高速道路沼津インターチェンジ、国道1号・246号・414号、東海道本線及び御殿場線のほか、隣接市町と連絡する新東名高速道路（長泉沼津インターチェンジ）、東海道新幹線に加え、平成28年3月には東名高速道路愛鷹スマートインターチェンジが、平成29年3月には新東名高速道路駿河湾沼津スマートインターチェンジが供用開始になるなど、首都100km圏にある県東部地区交通網の拠点として多面的な発展を遂げており、「人・まち・自然が調和し、活躍するまち」をめざしている。

## （過去5年間の人口の推移）

住民登録人口（4月1日現在）

年次	世帯数	人 口		
		男	女	計
平成31年	91,624	96,277	98,762	195,039
令和2年	92,467	96,003	98,204	194,207
令和3年	92,835	95,137	97,507	192,644
令和4年	92,851	93,949	96,468	190,417
令和5年	93,387	93,064	95,549	188,613

※ 住民基本台帳法の改正に伴い、平成26年度から、世帯数・人口は「外国人を含めた住民基本台帳人口」を掲載している。



沼津市章

## 市章のいわれ

ヌマヅの「ヌ」と沼津市の名勝として名高い千本松原の松葉をとってこれを組み合わせ図案化したもので、昭和2年の市議会において市章として決定された。

## 沼津市民憲章



沼津市民憲章  
マーク

私たち沼津市民は

1. 緑と水と空、このかけがえのない自然を守り育て、清潔な環境をつくります。
1. すすんで心身をきたえ、健康と文化の向上につとめます。
1. 仕事に生きがいを見だし、意欲をもって働きます。
1. 人権を尊重し、時間と規則を守ります。
1. 善意と思いやりをもって、温かい家庭と社会を育てます。

昭和48年7月制定

## 市の木「松」

富士山を背景に、寄せる白波に緑が映える千本松原は、東海の名勝として古くから人々に愛されてきた。



老松・古松に多くの歴史を秘めたこの松原は歌人・若山牧水、作家・井上靖の作品にも登場し、千本浜公園内には、その歌碑・文学碑も建てられている。

「松」は、このほか香貫山、愛鷹山など市内の各所に植えられ、沼津ゆかりの木として昭和45年4月、「市の木」に制定された。

## 市の花「はまゆう」

初夏になると白い繊細な花を開くはまゆうは、沼津市の大瀬岬の砂地に群生し、昭和45年4月「市の花」に制定された。



このひがん花科の植物は、万葉集にもうたわれた名花で、海浜砂地に自生し、花が木綿(ゆう)に似ていることからこの名が付けられた。

# 沼津市の教育年表

明治元年	徳川氏駿河移封にあたり、旧幕府陸軍部の沼津移住の有志、添地に代戯館を設け少年たちに漢籍洋算を教授
明治2年	沼津兵学校・同附属小学校開校
明治4年	沼津兵学校附属小学校は沼津兵学校の兵部省移管に伴い沼津小学校と改称
明治6年	沼津小学校が公立小学集成舎と改称 旧本陣清水太郎作方に明強舎を創立
明治10年	集成舎と明強舎が合併し沼津巒（沼津学校）となる
明治21年	沼津尋常小学校附属「沼津文庫」設立
昭和3年	沼津尋常高等小学校を第一尋常小学校、沼津女子尋常小学校を第二尋常小学校、楊原尋常高等小学校を第三尋常小学校と改称し、各校の高等科を廃止。第四尋常高等小学校創立
昭和10年	村名を変更したことに伴い鷹根尋常高等小学校を愛鷹村立愛鷹尋常高等小学校と改称 「沼津文苑」創刊
昭和13年	第五尋常小学校創立
昭和16年	尋常高等小学校・尋常小学校ともに校名を国民学校と改称
昭和19年	第六国民学校が市道・松下を校区に創立 片浜・静浦・大岡・金岡の各村が沼津市と合併したことにより各村立国民学校を沼津市立国民学校と改称
昭和21年	第一中学校（市立高前身）創立
昭和22年	教育基本法、学校教育法改正（4月1日施行） 学校教育法の施行により、国民学校を小学校と改称。中学校および旧制中等学校に併設中学校を創立 村立戸田小・中学校創立
昭和23年	第一中が沼津市立沼津高等学校と改称し、東熊堂へ移転
昭和25年	静浦東小創立 市立高が学校法人沼津高等学校と改称
昭和26年	静浦西小創立
昭和27年	沼津市に教育委員会事務局（学務課・管理課・指導課）を設置 学校法人沼津高等学校が再び市立となり商業科を設置 沼津市立図書室（沼津文庫）開設 沼津市教育委員の選挙が行われ、沼津市教育委員会が発足 浮島・愛鷹・内浦・西浦・大平の各村及び原町に教育委員会を設置
昭和29年	市立高体育館竣工 第五小西分校（開北小）創立 沼津聾学校並びに寄宿舎落成
昭和30年	大平・西浦・内浦・愛鷹の各村が沼津市に合併し、各村立小中学校が沼津市立と改称 浮島村が原町と合併し、同村立小・中学校は原町立と改称
昭和32年	第六小が千本小と改称。開北小が第五小より分離独立
昭和35年	岡野喜太郎氏に名誉市民の称号を贈呈
昭和37年	駿河図書館開館 市立高が三枚橋へ新築移転
昭和38年	文化会館開館
昭和39年	市立高新体育館竣工。普通校舎増築竣工
昭和40年	市立高に衛生看護科設置
昭和41年	青少年センター開設
昭和42年	市立高プール竣工 教育研究奨励制度発足
昭和43年	原町と沼津市の合併により原・浮島の小中学校は沼津市立と改称 市立高の衛生看護科に専攻科（修業年限2年）設置 勤労青少年ホーム開館
昭和44年	戸田造船郷土資料博物館開館
昭和45年	西浦西小が西浦小に統合。香貫小創立
昭和47年	門池小創立

昭和48年	今沢小創立 少年自然の家開所 市民体育館開館
昭和49年	ぬまづ社会科研究会著『ぬまづ昔ばなし』発行 大平幼稚園・戸田幼稚園開園 歴史民俗資料陳列館開館
昭和50年	今沢中・門池中創立
昭和51年	西浦・内浦中を統合し、中学校校地を長井崎に決定
昭和52年	市立高グラウンド整備竣工
昭和54年	戸田小新校舎完成 休場遺跡が国史跡に指定 沢田小創立 戸田舟山に「みどりの学校」を開設
昭和55年	芹沢光治良氏に名誉市民の称号を贈呈 屋内温水プール開所 青少年健全育成都市宣言
昭和56年	原東小・長井崎中創立 勤労者体育センター開所
昭和57年	大岡南小創立 市民文化センター開館
昭和58年	井上靖氏に名誉市民の称号を贈呈
昭和59年	明治史料館開館 「歴史民俗資料陳列館」を「歴史民俗資料館」に改称
昭和61年	青少年教育センター開設
昭和62年	若山牧水記念館開館
昭和63年	市立高専攻科新校舎竣工 長浜城跡が国史跡に指定
平成元年	生涯学習推進本部設置
平成2年	長倉三郎氏が文化勲章を受章、名誉市民の称号を贈呈
平成5年	市立高商業科閉科 市立図書館新築開館
平成7年	興国寺城跡が国史跡に指定
平成10年	戸田舟山「みどりの学校」を「ゆめとびら舟山」に改称
平成11年	戸田保育園・幼稚園合築施設「へだっこセンター」完成
平成12年	ちえづくり・ひとづくり・沼津の教育21推進事業開始 庄司美術館（愛称モンミュゼ沼津）開館
平成14年	市立高新校舎（普通教室棟、特別教室棟）竣工 小学校における国際理解教育「わたしたち小さくても大きな国際人事業」の推進 情報通信のブロードバンド化に対応し、高速通信網に接続
平成15年	市立高衛生看護科閉科。中等部創立 学校図書館を利用した学習活動の展開を推進（司書教諭配置） 大岡信氏に名誉市民の称号を贈呈
平成16年	魁光章設立 「人づくり未来塾」開始 戸田幼保教育特区
平成17年	市立高専攻科閉科 教育企画室設置 戸田村が沼津市に合併し、村立幼稚園・小中学校・図書館が沼津市立と改称 「人づくり未来塾推進事業」により、各校が自らの裁量で事業を企画実施し、主体的に執行 通学区の弾力化「隣接校選択制」導入
平成18年	国が「言語教育推進事業」を特区として認定。市内小中学校（市立高中等部を除く）に言語科を導入 松城家住宅が国重要文化財に指定
平成19年	静岡県教育委員会（静岡教育事務所）から指導業務が移管

平成19年 平成20年	教育推進会議に対し「これからの沼津市における教育のあり方について」を諮問し、答申を受ける 「沼津市教育委員会事務評価委員会」設置 ロボカップジャパンオープン開催 ジュニアスキルズ第1回開催 市立高新体育館竣工 高尾山古墳発掘調査（H20からH21まで）
平成21年	「夢ある人づくり塾」開始 「沼津市教育基本構想」策定 「がんばる学校応援事業」により特色ある学校づくりを支援 芹沢光治良記念館開館
平成22年	静浦地区3小学校を統合、静浦中は旧静浦西小へ移転 静岡県が2月23日を「富士山の日」として制定 「沼津内浦・静浦及び周辺地域の漁撈用具」が国重要有形民俗文化財に指定 環境教育の一環として全小中学校に太陽光発電システムを設置
平成23年	教職員研修センター開設 東日本大震災を踏まえ、学校の防災計画の見直し
平成24年	市立高生活館（求道館）竣工 西部市民運動場開設 「高尾山古墳発掘調査報告書」刊行。「高尾山古墳シンポジウム」開催
平成25年	「沼津大志学習」プラン策定 「沼津市スポーツ推進基本計画」策定 「沼津市新市民体育館整備基本構想」策定 大岡市民運動場整備竣工
平成26年	「学力保証プログラム事業」開始 静浦小中一貫学校開校
平成27年	「沼津市教育基本構想」改訂 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正をうけ、総合教育会議を設置 教育大綱の策定に着手 長浜城跡史跡整備完了。一般公開
平成28年	首長による沼津市教育大綱策定 旧教育長と旧教育委員長の職務を兼ねた「新教育長」就任 「沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の概略方針」策定 「イングリッシュアドベンチャー事業」「みんなで受けよう！英検3級事業」「イングリッシュデビュー事業」等英語力向上に向けた事業開始 旧沼津御用邸苑地が国名勝に指定
平成29年	少年自然の家廃止 「沼津市立小中学校の適正規模・適正配置の基本方針」策定 「『チーム学校』実現事業」により、教育の充実と教員の執務時間の確保を支援 「沼津市新市民体育館整備基本計画」策定
平成30年	市立小中学校（市立高中等部を除く。）を小中一貫教育の研究校に指定 市立図書館が「子供の読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受ける
平成31年 （令和元年）	第四小学校・第五中学校に共同学校事務室を設置 勤労青少年ホーム廃止 市立小中学校（市立高中等部を除く。）で小中一貫教育を導入 「成人式」を「二十歳の集い（はたちのつどい）」へ名称変更 全小学校の普通教室等にエアコンを設置
令和2年	新型コロナウイルス感染拡大に伴い市立小中学校（園）において90日間の臨時休業 臨時休業に伴う学習支援として市内小中学校児童生徒に図書カードを配布 GIGAスクール構想・オンライン授業等研究プロジェクトチーム結成 市立中学校3年生を対象に補習学習として「沼津寺子屋」を開催 首長による沼津市教育大綱策定 「沼津市新屋内温水プール基本構想」策定 コミュニティ・スクール導入開始

令和2年	<p>地域学校協働本部設置開始</p> <p>「沼津市学校教育におけるICT活用方針 ～N-GIGA～」策定</p> <p>全中学校の普通教室等にエアコンを設置</p> <p>屋内温水プール閉館</p>
令和3年	<p>「ぬまづ電子図書館」開館</p> <p>沼津市版GIGAスクール構想において1人1台端末（Chromebook）を貸与及び活用環境整備</p> <p>「沼津市教育基本構想」策定</p> <p>戸田幼稚園を廃止し、幼保連携型認定こども園「戸田こども園」を開園</p> <p>内浦小学校・西浦小学校を廃止し、長井崎小学校を開校</p> <p>長井崎小中一貫学校開校</p> <p>戸田小中一貫学校開校</p> <p>「スポーツ振興課」が教育委員会事務局から「ウィズスポーツ課」として市長部局（産業振興部）へ移管</p> <p>学校教育課内に情報教育推進室と学校給食室を設置</p> <p>学校給食会計の公会計化</p> <p>緊急事態宣言下における夏休みの延長</p> <p>1人1台端末（Chromebook）の持ち帰りを開始</p>
令和4年	<p>県教育委員会より指定を受け、幼児教育支援充実事業研究を開始</p> <p>英語パフォーマンステストを導入</p> <p>国重要文化財松城家住宅の保存修理工事が完了</p> <p>市立高新入学生に1人1台端末（iPad）を導入（BYAD方式）</p> <p>「新成人議会」を「二十歳の議会（はたちのぎかい）」へ名称変更</p> <p>市民体育館・勤労者体育センター・香陵武道場を廃止し、香陵アリーナ（沼津市総合体育館）を開館</p>
令和5年	<p>文化振興課内に文化政策室と文化施設係を設置</p>